

社会科の問題は、歴史・地理・公民のいずれの分野からも出題しています。6年生の教科書では最後に扱われる現代の歴史や国際社会に関する内容も範囲に含まれますので、教科書は最後まで必ず目を通し、知識を十分に得ておくようにしてください。なお、社会科は、教科書の内容だけを学びの内容とするものではありません。日々のニュースや国際情勢について関心を深め、自分自身が持っている知識と結びつけることも大切です。その時にはぜひ、「なぜ？」と物事を探究する意識を持ってください。

その土台づくりとして大事なのは、まず**必要な知識を確実に身につける**ことです。これまでの入試でも、基本的事項を問う問題を多く出題してきました。学習にあたっては、単にたくさんのがらが丸暗記するのではなく、**それぞれの意味をしっかりと理解していく**ことを意識してください。知識を確実にするためには、教科書を「眺める」だけではなく、自ら手を動かして「書いて覚える」、「自分なりに表にまとめて整理する」といったことも効果的です。語句や人名について、漢字で書ける部分ではできるだけ漢字で書く努力もしてください。

このようにして知識をしっかりと持ったうえで、そこから発展して「なぜ？」を考えるヒントとなる問題を、本校 2024 年度前期入試の大問1から見ていきます。

- 問1. 集合写真の背後に写っている原爆ドームは、1915年に広島県物産陳列館として完成し、その後、1933年に広島県産業奨励館となり、1945年に原子爆弾の投下を受けました。次の「あ～か」の6つの出来事を、①1915年～1933年の時期と、②1934年～1945年の時期に分け、それぞれの3つを古いものから順にならべかえなさい。
- |               |              |             |
|---------------|--------------|-------------|
| あ. 関東大震災の発生   | い. 国際連盟への加盟  | う. 真珠湾攻撃    |
| え. 男子普通選挙制の成立 | お. 二・二六事件の発生 | か. ミッドウェー海戦 |

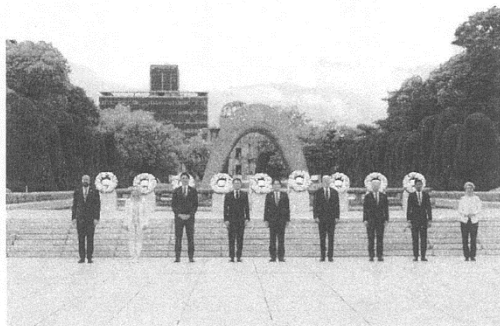
問1は、20世紀初めの6つのできごとについて、それらを大きく二分したうえで時代順に並び替えるという問題です。この問題は、歴史にすることがらの年号をすべて暗記していれば確かに解ける問題ですが、ここで**意識してほしいのは「歴史の流れ」**です。時代を2分する境目である1933年は日本が国際連盟から脱退した時期にあたります。第一次世界大戦以降、1933年までの時期は、日本が国際社会の中で存在感を強め、国際連盟の主要な構成国となった時期であり、大正デモクラシーの動きが高まった時期でもありました。一方、1933年以降は国際社会から次第に孤立し、再び世界大戦へと向かっていく時期にあたります。世界をみても、第一次世界大戦のあとの国際平和を目指す動きが目立った1920年代までに対し、1930年代になると世界恐慌による不景気の影響などで世界が大きく揺れ動く時期に入ります。問題の選択肢をみると、「い」の国際連盟への加盟で国際社会での存在感を高めた日本は、「あ」の関東大震災の影響を受けながらも、「え」の男子普通選挙制などの仕組みが作られていきました。一方、1930年代以降になると、「お」の二・二六事件などを経て日本では軍部の発言力が強まり、「う」の真珠湾攻撃からアメリカ合衆国に対する戦争に突入、「か」のミッドウェー海戦での敗退へと続いていきます。このように、歴史のことがらは**年号をただ覚えるのではなく、それ**

それぞれの時代の特徴・ようすを大まかにとらえ、「流れ」を意識することで、それぞれのことがらが起きる理由やそれによる影響などを考えることができます。「なぜ？」の問いを考えるヒントはこうしたところにかくされています。

- 問 8.(3) 最高裁判所が(2)の判決を出した翌年、国会で法律が改正され、女性の再婚禁止期間が100日に短縮されました。法律が改正される手続きに関する説明として正しいものを次から1つ選び、記号で答えなさい。
- あ. 政府が作成した法律の改正案は、内閣総理大臣によって必ず衆議院議長に提出される。
  - い. 法律の改正案は、衆議院の本会議で審議された後、委員会で採決が行われ、可決されて参議院に送られる。
  - う. 法律の改正手続きでは、新しい法律の制定と異なり、一方の議院で可決されれば改正される。
  - え. 改正された法律は、内閣の助言と承認により、天皇によって公布される。

また、問 8 (3) は法律改正の手続きに関する正誤問題で、正確な知識と理解が求められます。「あ」～「う」の文はいずれも誤りですが、法律の制定や改正についてこうした厳密な方法と順序が決まられているのはなぜか、を考えてみてください。それを通じて、国家や国民に対する法律の重要性、さらに衆議院と参議院という二院制が果たすべき役割などについての理解を深めることができます。

のぞみ：「G7サミット」ってどういう意味？  
 こだま：G7というのは「7か国（Group of 7）」という意味なんだ。そしてサミットは「首脳会議」という意味。  
 のぞみ：7か国というのは、日本と、アメリカと、フランスと、  
 ◎イギリスと、ドイツと、中国と・・・。  
 こだま：中国は◎BRICSの構成国だけど、G7には入っていないよ。あと、イタリアとカナダでG7。  
 のぞみ：日本で開かれるのは7年ぶりなんだってね。  
 こだま：そう。各国が持ち回りで開くことになっていて、日本で開かれるのは7回目なんだ。  
 のぞみ：あれ、7か国のはずなのに、9人写っているのはなぜだろう？

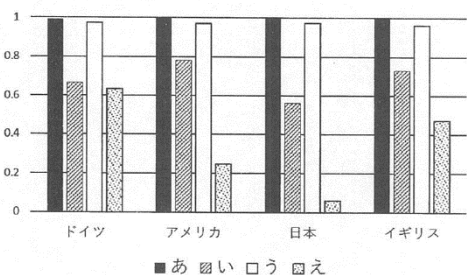


(外務省ホームページより)

こだま：それはEU（ヨーロッパ連合）も参加しているからだよ。両端の2人がそうなんだ。  
 のぞみ：今年は岸田首相が議長だから、真ん中に写っているんだね。  
 こだま：その向かって右がバイデン大統領、左はマクロン大統領。ショルツ首相やトルドー首相もいるね。  
 のぞみ：写真には女性が2人写っているね。  
 こだま：メローニ首相と、ヨーロッパ委員会委員長のフォン・デア・ライエンさんだね。フォン・デア・ライエンさんはドイツのメルケル首相のもとで長らく大臣をつとめた人だけれど、メルケル首相も女性だよ。イギリスも前首相は女性だったし、過去に3人の女性の首相が誕生している。◎すべての大陸で、女性が首相や大統領になる国は着実に増えているんだ。

問 4.(2) 日本で開かれたサミットの年が一定の**間隔**ではない理由を、二人の会話を参考に説明しなさい。

問 8.(4) 右の図は、ドイツ、アメリカ、日本、イギリスの男性に対する女性の地位を、「政治」「経済」「教育」「健康」について、1を最高として評価したものです。二人の会話を参考に、「政治」にあたるものを図中の「あ～え」から選び、記号で答えなさい。



世界経済フォーラム「ジェンダーギャップ指数 2023」より

続いて、問 4 (2) および問 8 (4) は、大問の最初に示した会話文の内容をヒントにする問題です。問 4 (2) では「こだまさん」の3番目の発言をヒントにすると、「各国が持ち回りで開くことになっ

ている」のに7年間隔の場合と8年間隔の場合があるということは、「現在の参加国は7か国だが、参加国が8か国であった時期がある」ということが考えられます。また、問8（4）では「こだまさん」の最後の発言をヒントにすると、「女性が首相や大統領になる国は確実に増えている」一方で日本ではいまだ女性首相が見られないということから、政治分野での男性に対する女性の地位がヨーロッパに比べて特に低いということが考えられます。これらの問いは、**必ずしも教科書に書かれた知識によるものではありません**。「なぜ？」の問いを考えるためには、自分が現時点で持っている知識だけでは不十分なこともあり、その場合は**自分でさまざまな資料にあたって調べていくことが必要**です。そのため**読解力は、社会科の学習にとっても不可欠**です。日ごろから読書にはげむことも大事です。

ところで、社会科の場合、調べるために必要な題材は文章に書かれたものだけではありません。特に地理分野の場合は**地図やさまざまな統計も「なぜ？」の問いを考えるヒント**となります。

問4.（1）5月の開催地である、新潟市、仙台市、富山市、金沢市、長崎市に関する次の文X・Yの正誤の正しい組み合わせを下から選び、記号で答えなさい。

X. 5都市すべてに新幹線の駅がある。

Y. 日本海に面した都市は3つある。

あ. X：正 Y：正      い. X：正 Y：誤      う. X：誤 Y：正      え. X：誤 Y：誤

問4（1）は日本国内の5都市についての地理的事項・位置について問うものです。いずれの都市も県庁所在都市であり、よく知っている地名ばかりでしょう。それでは、それぞれの都市の場所をしっかりと地図で確認したことはあるでしょうか？白地図の中におおよその場所を示すことはできるでしょうか？また、新幹線は主要都市を結ぶような形で建設が進められましたが、どういったところを結んでいるでしょうか？地理の学習では、**その場所の特徴に着目**することで、「なぜその地域で、その産業がさかんになるのか」、「なぜその地域で、その気候が見られるのか」といった問いについて考えることができます。沿岸部と内陸部では、気候の特徴も違えば、物資の運びやすさなどから産業の特徴が異なることもあります。新幹線のような高速交通で結ばれた都市間は、離れていても人々の行き来がさかんになったり経済的な結びつきが強くなったりすることもあるでしょう。地図をみて、**その場所の特徴を理解することは、その場所の自然環境やくらし、産業などについての理解を深めることになり、さらなる「なぜ？」を追求していくことも可能**になるでしょう。

問8. 表1中の下線部㊦に関連して、右の表6は、日本の主な貿易港の輸出入額(2021年、単位：億円)を示したもので、「あ～え」は東京港、名古屋港、四日市港、広島港のいずれかです。広島港にあたるものを選び、記号で答えなさい。

表6

	あ	い	う	え
輸出額	124805	64938	13368	8575
輸入額	52892	122281	3498	15175

『日本国勢図会 2023/24』より作成

統計については、地理分野においてさまざまな形で出題しています。例えば、問8は国内の4港についての輸出入額をヒントに広島港のデータを選ぶ問題です。この統計によると、輸出・輸入額のいずれも「あ」・「い」は「う」・「え」に対して非常に多くなっています。また、「あ」と「う」は輸入額より輸出額の方が多くなっているのに対し、「い」と「え」は輸出額より輸入額の方が多くなっています。なぜこのような違いが出るのでしょうか。各港の貿易額は、港がある周辺地域の都市規模に大きく左右されます。例えば、東京や名古屋は広島や四日市に比べると都市の規模が大きいため、港の貿易額は東京や名古屋の方が大きくなることが考えられます。また、日本の貿易の特徴として、主要な輸入品として石油や石炭などの資源のほかには食料品や衣類といった日用品が、輸出品として自動車があることが知られています。このことから、自動車生産がさかんな地域では輸入額より輸出額が多くなること、石油化学工業がさかんな地域や、周辺人口が多く日用品の需要が大きな地域では輸出額より輸入額が

多くなることが考えられます。統計は数値の大小を示すものですが、その統計が示す地域の特徴を知識として得ておくことによって、「なぜ、こうした数値（他と比べて大きい/小さい）になるのか？」といった深い読み取りをすることが可能となります。

このように、「なぜ？」の問いに対して考察を深めていく力は、基本的な知識を土台として、文章・地図・統計などの読解力を向上させていくことによって次第に得られていきます。受験生のみなさんには、できるだけ早い段階からこうした力を身に着け、社会科の学習に関心を持って取り組んでほしいと願っています。